

東部地区

復興まちづくり協議会・地権者連絡会

議事要旨

■開催日時：令和2年1月27日（月）18時30分～19時49分

■開催場所：釜石情報交流センター 釜石PIT

■次第

1. 市長からの挨拶
2. 本日の趣旨とこれまでの経緯
3. 東部地区の事業スケジュールについて
4. 空き区画公募について
5. 街路灯・防犯灯の設置について
6. 台風第19号による被害状況及び今後の対応について
7. 避難路・避難所について
8. （仮称）尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事について
9. 釜石港海岸・釜石漁港海岸の防潮堤について
10. 甲子川水門の進捗状況について
11. 意見交換

意見交換（住民から市への質問と回答）

質問 1

台風第19号の被害状況の調査はどの辺までしているのか。

回答

これまでも災害復旧等で調査が入っているところがありますが、被災の多かったエリアの部分は現在調査を実施しており、対策についても学識経験者の皆様方初め専門的知見をお持ちの方からご意見を頂戴しながら対策を講じて計画を策定していくというような状況です。

質問 2

震災復興事業と今回の台風第19号の災害に対する負債、復旧費用はどのくらいになるのか。また、災害査定で認められなかった部分は市のほうでその分を負担して復旧するのか。

回答

金額的なものについては、まだお示しはできない状況ですが、災害査定で認められなかった部分につきましては、その状況を見ながら検証の結果を踏まえて、市費での復旧工事の検討をしていくというように考えております。

質問 3

台風第19号被害による修繕工事をする際は、何日か前に近辺の住民へ工事の通達をしていただきたい。

回答

市が実施する工事については、我々管理する立場として、皆さんにご迷惑をかけるようであれば、必ず事前に周知させたいと考えております。

質問 4

法面が何度も雨で流されているが、今後も被災被害が出るかも知れないので、土を削るだけでなくコンクリートなどで覆えないものなのか。

回答

現場を確認して検討してまいりたいと考えております。

質問 5

この前の台風第19号で浸水被害があり造成をしてもらったが、今後また大きい台風が来た場合の対策はとってもらえているのか。

回答

全て調査、検証をする予定です。検証する中で有識者の方々からのご意見もあると思いますので、そちらの意見も参考にしながら、対策については、説明会という形でお示ししたいと考えております。

質問 6

区画整理事業で整備した区画の利用として、区画公募だけではなく、公園や高齢者の憩いの場となるようなその場所に合った有効な土地の使い方を考えるべきではないか。

回答

区画整理事業では、事業面積に対して何%という割合で緑地を整備する必要があり、これまで各地区で何箇所か整備しているのですが、公園の整備につきましては、地元の住民とワークショップ等行いながら、公園の有効的な使い方や利用方針を決めて整備をすることとしております。

質問 7

将来のことを考えると、釜石を引き継ぐ若い人たちのために、今の段階で区画の整備をしなければならないし、土地の使い方についても十分に配慮して整備していただくように要請します。

回答

要望として、承ります。

質問 8

急傾斜地の多い釜石において、治山治水の関係の事業の進め方に対して県はどういう考えを持っているのか。

回答

現在、釜石、大槌で毎年継続的に実施をしているという状況ですが、どこまで進んでいくかというお話になると、全県的に家が多いとか、避難所があるといったところの優先順位をつけながら事業を実際に進めていくような形になります。

質問9

尾崎町の郷土芸能伝承施設の改築工事ですが、市の財政が逼迫しているであろう状況の中で、住民との調整はどのようないきさつを持ってこの計画になったのか。

回答

尾崎町の郷土芸能伝承施設の改築工事は以前から改築の要望書が出されており、昨年の要望があったことを受けて、市のほうで予算化しております。工事を実施するにあたりましては、郷土芸能の保存等に使っていただきたいという用途、目的があって寄附されたお金がありますので、その寄附金のほうを使わせていただきながら整備するというようにしております。

質問10

郷土芸能伝承施設の管理運営等々、そういったものが地域の方々に降り掛かってくるのではないか。

回答

地域の方々からは、維持管理は全て自分たちですので、建物だけは直してくれというお話をいただいております。

質問11

現計画の防潮堤に大型船が津波で流されて回遊した場合など、幅が薄いのではないかと思うが、強度的にもつのか。

回答

防潮堤の壁厚は、静水圧だけに耐えられる構造になっており、動水圧は考慮しておりません。ただし陸開などの場合は、漁船程度の衝撃過重は勘案します。

質問12

水門扉の自動開閉について、高潮と洪水の災害が重複した場合などを想定し、県と市と十分に協議して対策をとるべきではないか。

回答

水門自動閉鎖システムによる水門運用方法については、釜石市と協議しながら検討しており、まずは津波に着目して操作規則というものは設定しました。高潮については次の段階で検討し、釜石市と協議をして参ります。

質問13

この前の台風第19号のときに警報が出たが、警報は何を基準にして出すのか。

回答

甲子川の水位計は礼ヶ口の橋の下の下流のほうにあり、そちらが氾濫危険水位を越えたということで、また雨が降り続けるとあふれるということが想定されたので、避難指示を出しました。

質問14

真夜中に避難指示を出されても逃げるところもなく逃げられない。避難状況の検証はしているのか。

回答

どの程度の方々が避難したかというのは把握できていない状況ですが、洪水浸水想定区域内に住んでいる方々は、避難指示が出た際、他の場所に移動するという避難の仕方以外にも、家の中の高い場所への移動など、できるだけ最善の避難行動をとっていただきたいと考えております。

閉 会

【野田市長】

それでは、今日もいろんなご意見をいただきまして、長時間にわたりましてご協力いただきました。まことにありがとうございます。

ちょっと話は変わりますが、震災のときにサケが戻ってこないということで、稚魚の放流ができなかったものですから、そのためかなと思っておったのですが、9年たちまして、どうも東日本大震災のせいではなくて、温暖化のために水温が上がって、サケもなかなか南のほうに来なくなったというような説を聞くようになってまいりました。

我々どうしても東日本大震災を契機に物事が変わったように思うわけでございますけれども、同時に天候のほう、3年前でしたか、台風10号のときもそうだったのですが、台風が初めて東北に上陸をするというようなこともあって、これもたまたま珍しくそうなったのかなというふうに思っておりましたが、今回の台風19

号を体験してみまして、どうもやっぱりたまたまではなくて、これからそういう傾向が強くなっていくという大きな歴史の変わり目に今いるのかなと、こんな感じを強くしているところでございます。

今回の台風19号の災害のときも、何十年とここに住んでいるけれども、裏の山の沢がこんなに氾濫したのは初めてだとか、そういったこととお話しする方もたくさんおられまして、かつてないそういった災害に遭遇してしまったということでございます。

先ほど来急傾斜地が多い山の治山治水をどうするのだとか、あるいは土砂災害どうするのだ、いろんなご意見があるわけでございますけれども、繰り返しになりますが、まず今回我々もそういった意味で重く受けとめて、先ほど申しあげました検証委員会を立ち上げて、それぞれの原因をきちんと追及して、それに対してどう対応したらいいかということをして市の内部できっちりと検討していきたいと思っております。

国のほうも、あの台風のときに改良復旧という言葉がよく新聞とかテレビでお話がありまして、改良復旧というのは、壊されたところをそのまま直すということではなくて、もっといい方向に直すというのが改良復旧ということだそうでございますけれども、国のほうもそういう方向を出したものですから、先ほど災害査定というのがあって、国からどれぐらいのお金がもらえるかということで今やっているわけですが、そういった点、国のほうでも配慮してくれるのかなと思ってちょっと期待をしているところでございますが、どうも話を聞くとそこまできかないようなあんばいでもございまして、ではこうしたほうがいいというときに、国からのお金では間に合わないからどうするのだという話も先ほどございましたけれども、要はそれを全部やれるほどの財源はないということは間違いなく言えると思えます。

ただ、だからといって、もとあったものをそのまま直ただけでいいのかというところもまた疑問でございまして、そういったことからすると、やっぱり一番危険なところとか、重点的に取り組むところはきちんと、財源が国からの財源では足りなくても、市の財源を出しても、そういうところはきちんと対応すると、こういう考え方で臨んでいかなければならないのではないかと、こう思っております。したがって、一回に全部ということではなくて、これから1年ごとに少しずつそういった対応をしていかなければならないのではないかと、これを強く感じているところでございます。

したがって、できることは、どこが危険で、大雨が降ったときはどうなるかとい

うことを地域の皆さんと一緒に共有をしながら、できるだけ被害を免れるといえますか、自分の命を守るという観点から、そういったところで共有をしていかなければならないと思っておりますので、情報はきちんと出しながら、そのところを皆さんと協議を進めていただければありがたいと思っておりますので、まずその点少しご理解をいただければと思います。

それから、そういった情報をどうやって出すのだという話でございますが、もちろん折に触れてこういった説明会も開催していかなければなりません、例えば先ほどのお話のとおり、ここの工事がこれから始まるとか、その工事はこういう工事だとかというところをやっぱり事前に地域の皆さんにお示しをするということも大事だと思っておりますので、できれば東部地区だと応援センターの応援センターだよりというのがございますので、そういった情報を提供しながら、これは東部地区だけではないので、鶴住居とか、甲子とか、全部の地区なものですから、一つの紙で出すというのだと、詳しくは提供できませんので、やっぱり地区を狭めて、東部なら東部の情報を地域の皆さんに提供すると、こういうやり方も一つの考え方かなと思っておりますので、事前にお聞きしておきまして、事前にそういった工事の内容についてもお話をしながら、その点についても共有をさせていただければありがたいと思っております。

それから、この件については、国ももちろん力を入れてやるという話でございますし、県のほうも従前にも増して、今回の台風に対しては対応していくという姿勢でございますので、国と県と我々と、そして地域の皆さんと連携しながら、ぜひそういったところを取り組ませていただければと思っておりますのでございます。

それから、公園の確保とか、いろんな課題がございましたけれども、まさにそのとおりでございます。できるだけ少子化対策、子育て環境には力を入れていきたいと思っておりますので、これから地域の皆さんと色々な話し合いがあらうかと思っておりますし、特に子育てについては公園のあり方のワークショップなどもこれから開催するという話も聞いていますので、そういったところから地域の皆さんと連携しながら確保していきたいと思っておりますのでございます。

それから、今現在9年目になりましたが、まだ仮設に残っている方が82世帯ございます。去年の暮れでは、大体100世帯以上の方がまだ仮設に残っておりましたが、今、年が明けて、現在82世帯まで減少いたしました。ただ、この残っている方の多くは、宅地はもう確保していると、あと大工さんとの関係でスケジュールが延びているのだという方々でございますので、令和2年度中には多くの方が自宅

の再建ができるかと思えます。

若干まだ対応できないという方もおられますので、そういった方々にはきちんと寄り添いながら、できるだけ最後の一人まで再建ができるように努力をさせていただきたいと思っておりますが、やはり東部地区にたくさんの方々に戻っていただきたいということで、先ほど空き地の公募という話もございました。ですから、まだまだ土地があるわけがございますので、そういった方々にもお声がけしながら、一人でも多くの方々に東部地区に戻っていただいて、少しでもにぎわいに貢献していただければありがたいと、こう思っているところでございますので、そういった点についてもぜひ皆様のご支援をいただければありがたいと思っております。

最後に、避難のあり方の話もありました。行政が全て皆さんの生命、財産、これを守るということはもちろん我々の仕事ではございますが、かといって全ての方々に対応できるかという、現実にはそれは無理な話でございますが、結果やっぱり行政としてやれるところは精いっぱいやるけれども、あとはやっぱり地域の皆さん、住民の皆さんお一人おひとりが自分の命は守るという姿勢の中で、どういう行動をとったらいいかということをやっぴり常日ごろ考えていただかなければならないと思っております。そのために避難訓練とか、あるいは自主防災組織とか、さまざまな取り組みをしているところでございますので、どういう災害が発生するか、大きなシミュレーションは皆さんもご存じのところではございますけれども、ただ現実にはどういう災害が来るかというのはなかなか想定し切れない部分もございますので、そういった点、やっぱり常日ごろの防災訓練が必要かと思っております。

その点も含めて、今回は、今年の台風第19号は幸い甲子川あるいは鶴住居川の氾濫はなかったのですが、もう少し雨が降り続けばもちろん氾濫するという状況だったと思えます。ほかの地区は、そうやって川が氾濫していたわけですから、釜石だけが氾濫しないということはないわけですね。氾濫する可能性はありますので、そういった場合の想定というのをやっぱりこれからしていかなければならないということで、先ほど危機管理監のほうからいろいろと話がありましたけれども、これからも必要な情報はきちっと提供させていただきたいと思っておりますので、どうぞひとつよろしくお願ひしたいと思えます。

今日は、さまざまなご意見がありましたけれども、それはきちっと精査して、受けとめさせていただきまして、対応できるものは対応し、また次の説明会あるいはまちづくり協議会等で報告をさせていただきたいと思っておりますので、どう

ぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

以上で本日のまちづくり協議会を終了させていただきます。ご協力まことにありがとうございました。

【司会】

以上をもちまして、東部地区のまちづくり協議会を終了いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。